

發行編輯人 川崎文治 印刷所 常盤每日新聞社



定一部五錢 廣告費 印刷所 常盤每日新聞社

刊夕日九十月一

金色夜叉のモデル 巖谷小波 (一)

またお宮は、前にも云ふ通り甲の令嬢乙の少女とを四分六若くは七三位な割合でモデルにしたらしく思はれるが、それもあつさり

蓋し世間の事實は動もすれば小説家の意表に出るものだ僕等の関係も亦其一であらう。

第十回決算報告 (大正十四年三月三十一日) 資本金 3,000,000 諸債 5,000,000 未償還債券 2,000,000 土地建物 3,500,000 機械器具 1,500,000 備前金 1,000,000 現金 2,000,000 負債 3,000,000 借入金 2,000,000 未償還債券 1,000,000 当期利益金 1,000,000 前期利益金 1,000,000 合計 10,000,000

特別安價品 友仙モス 十五錢 茶染新 一圓五十錢 本銘仙 七圓より

鹽屋の歳末特價品大賣出し 舊十二月廿日より十二月廿六日迄 吉田眼科醫院

一冊の代金で 御希望通りの 五冊の雑誌が 自由に讀める 川崎文庫

又復大特作映畫 毒又 東亞キネマ直營 日本館 電話五五二番

故平消防組小頭三部長本間金太郎君病氣之癒藥石効ナク十八日午後十二時三十分逝去致候間此段組員各位へ謹告致出

齒科專門森合齒科醫院 美味で評判の 遠藤パン

移轉急告! 西洋料理 支那料理 郷土社

急速に景氣が直られば 常磐炭は益々苦境

從業員に米塩の資すら
供給し得ぬ會社さへある

需要の最盛期であり乍ら依然米價の低落販賣數量の低減を來しつつある常磐炭礦々業所昨今の不況は既報の如く貨車廻りは例年になく潤澤に拘らず

輸出先

のなない爲め日々の出炭約二分の一は何れも貯炭するの餘儀なきに至つてゐる、而して之等何千何萬噸と山積した貯炭を擁し窮乏其極に達してゐる石城の炭礦界は一會社を除き他は殆んど稼賃の延滞は、まだしも稍もすれば從業員に對する米

炭礦を脅威する

ナゾの温泉脈を調査 地質學者を招聘

礦務監督局の救済策

福島縣石城郡地方で四ヶ月古河前の好間堅坑にて突然大温泉が湧出し休坑の憂目に遇ひ今同漸く再掘することになつたが、同地方では何れも此温泉脈を警戒し目下礦山業者の大問題となり常磐炭の市價にも影響する事ともなる、仙臺礦務監督局では之れが救済策を

再掘す

ることになつたが、同地方では何れも此温泉脈を警戒し目下礦山業者の大問題となり常磐炭の市價にも影響する事ともなる、仙臺礦務監督局では之れが救済策を

新任課長に 大瀧問題 陳情

同盟會幹部が
隔意なき懇談

一時平全町鼎沸の紛議を捲き起した平上水道上流大瀧發電所問題は之に關する香

考究中

で西川局長は古河炭礦を初め同地の主なる礦業者と懇談して地質



巖谷小波先生の 來平日時決定

巖谷小波先生は廿六日午後一時二十七分平驛着の平部線にて來平さるゝ事に決定した、滞在中の講演其他の日割りは(廿六日)依頼書書畫揮毫(廿七日)本社主催お伽講演會、平町通俗教育會、(廿八日)植田町通俗教育會、平町徒弟慰安會の豫定であつて是れが済むと中村町に於ける講演會に臨む爲め廿九日には同地に向つて出發する事となる。本社主催のお伽講演會は平町兒童の樂園を現出すべく目下種々準備中であるから會場其他が決定次第是れを紙上に發表する事とする、何れにもせよ天下に誇るべき名士が三日間平町に滞在する上に於て果して如何に偉大なる足跡を印すかであらうか是れ三万町民と共に本社の大いに期待する處である(上の寫眞は巖谷小波先生の近影)

坂知事の方針既に抜くべからざる迄に決定せるもの、如く傳へられたるもの、あるにも拘らずその後知事に於て公私内外極めて多端多忙なるためか今に何等の變動なく爲めに許可取消し或は會社の側の変更願ひ却下等に關し一般は今尚引續きその成り行きを觀望中であるが反對

寒くて震えてる 水道栓に着物を

着せて下さい

水道課よりの頼み

平町に於ける水道の鐵管及びコンクリート管の總延長は二萬四百六十八米であるが昨今の如き嚴寒に際し同地に於ける消費水量は四萬五千立方尺内外で

眞夏當時

に於ける一年の最大消費量は七萬六千立方尺であるからそれに比較すると約三萬立方尺の減少である、しかし近來の嚴寒で各水道栓が凍りつき急場の間に合はない様な有様であるが是れに就いて香野水道課長は語る「平町の水道栓の結凍は



小兒のわしめ

東京地方の人に限らず、當地方などではまたまた見受けまのでお知らせ申し

廿三、村内火防督勵を行ふ

本縣主催の 普通農事講習會

草野村にて

本縣主催普通農事講習會は來る廿九日から七日間毎日午前九時から午後三時迄石城郡草野村公會堂に於て開催する筈であるが、講師は園藝小嶋農事試驗場技手、肥料土壌學高崎同技手、稻作一般野村那技手である

娘が逃げた

平署へ搜索願

岩瀬郡須賀川町字三丁目力丸幸四郎の長女(三)は去る十一日午前五時頃無断家出し行衛不明となつたが多分多少知り合ひの郡山市燈田大工職橋本誠治(三)と同伴し平町に潜伏中らしいと實父から平署に搜索方願ひ出た

採炭中 岩石に打たる

指骨が抜けた

石城郡赤井村大字赤井字沼の作小田炭礦坑奥五十嵐小太郎(三)は十七日午後五時半頃坑内にて採炭中頭上から岩石落下し背隨脱臼の重傷を負ふた

鹿島火防督勵

石城郡鹿島村消防組にては來る

ます。昔の人はよく赤ちやんのおしめの上から小便をした時、着物まで通らぬやうにと厚い綿の入つた蒲團をあて、おきますが、それでもおしめを通して綿がぬれますので、一々綿ごとかへてやらねばなりません。そうしますと、どうもころ／＼していきませんし、其